

（3）領域別に分けた余震活動推移

余震域（図 1-1 の領域 a）を短冊状（図 3-1 の領域 b～e）に分けた活動の推移を図 3 に示す。陸域の領域 b では、福島県浜通りの地震活動を除き、東北地方太平洋沖地震前後で活動に大きな変化は見られない。沿岸域の領域 c では、低下しつつも現在も活発な余震活動が見られる。沖合の領域 d、e では、積算地震回数（累積回数）の傾きも緩やかになり余震活動は低下してきたが、時折 M7 前後の地震が発生している。

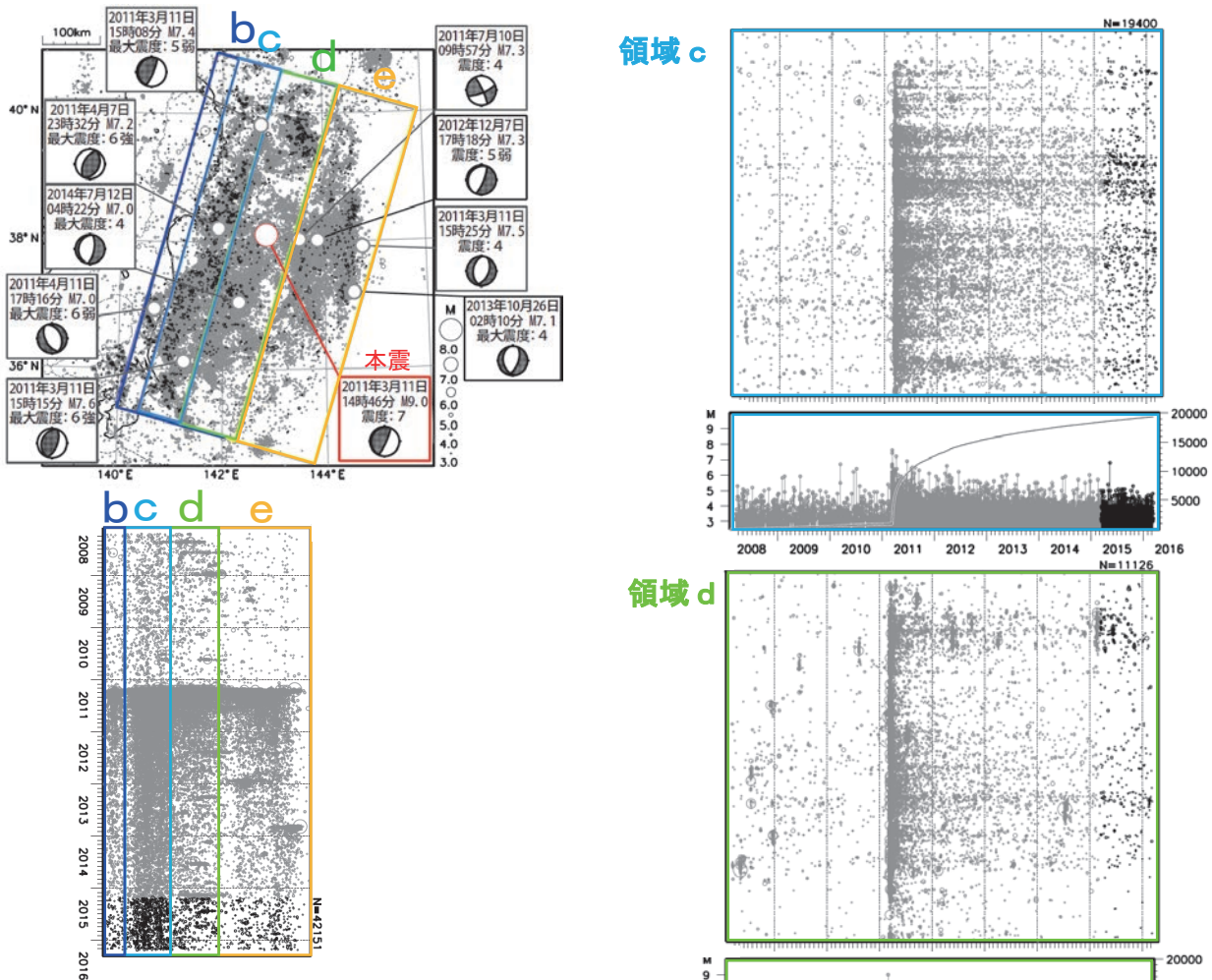


図 3-1 震央分布図と時空間分布図  
 (2008 年 3 月 11 日 14 時 46 分～2016 年 3 月 11 日 14 時 45 分  
 $M \geq 3.0$ 、深さ全て)  
 領域 b～e の範囲は、図 1-1 の領域 a に同じ。

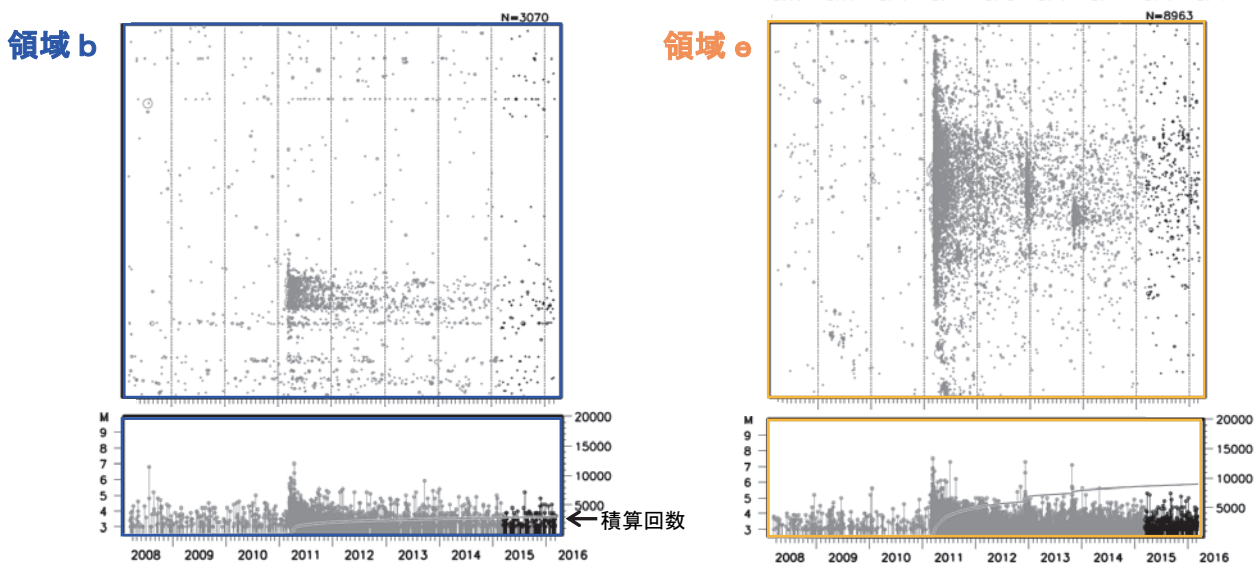


図 3-2 各領域（図 3-1 の領域 b～e）の時空間分布図と M-T 図及び回数積算図  
 (左下：領域 b 右上：領域 c 右中：領域 d 右下：領域 e)